

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 2月 28日

事業所名 URAURA八野

保護者等数(児童数)

回収数 14

割合 51.8 %

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	78.6%	14.3%	7.1%	0.0%		場所を分けるグループを分ける等してスペースを確保していきます。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	78.6%	0.0%	7.1%	14.3%		職員数は適切です。専門職にも活動を担当してもらうこともあります。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	92.9%	0.0%	0.0%	7.1%		館内は全てバリアフリーとなっており、車両も車椅子対応となっております。
適切な支援の提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%		支援計画の作成時にはご家族からの聞き取りをし作成しています。
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	92.9%	7.1%	0.0%	0.0%	いろいろな経験をしているように感じられる	パターンにできる部分とイベントや、行事を楽しめるよう工夫しています。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	14.3%	0.0%	7.1%	78.6%	そういう機会があるかどうかわからない	外出先として児童館を視野に入れていきます。
保護者への説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	92.9%	0.0%	7.1%	0.0%		必要に応じて紙面または、LINEでお知らせしていきます。個別の質問も受け付けます。
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	78.6%	21.4%	0.0%	0.0%		その日の様子をLINEで写真を添付することで知ってもらえる事も増えてきました。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	64.3%	21.4%	7.1%	7.1%		困りごとに対し的確に答えられるよう、職員のスキルアップに努めます。
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	42.9%	21.4%	14.3%	21.4%		定期的な保護者会を実施できるようにしていきます。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	57.1%	14.3%	0.0%	28.6%		管理者を中心に迅速に対応できるように、職員間で共有していきます。苦情の内容について丁寧に話を聞き原因究明、対策し、安心して利用いただけるようにしていきます。
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	85.7%	7.1%	0.0%	7.1%		LINEを活用し、写真添付するなどしています。
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0.0%	0.0%	0.0%		自己評価表は、HPで公表しています。法人機関誌を定期的に配布、事業所については新聞を1回/月配布しています。
14	個人情報に十分注意しているか	78.6%	7.1%	0.0%	14.3%		写真の掲載については、事前に了承をいただくようにしております。	
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	92.9%	7.1%	0.0%	0.0%		定期的に避難訓練を実施している事をお知らせしています。感染症対応については変更があれば、その都度紙面で周知させてもらっています。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	71.4%	0.0%	7.1%	21.4%		避難訓練として防災、防犯などについての活動をしています。
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	85.7%	7.1%	0.0%	7.1%	家でも職員や友達の名前が聞かれる動物とのふれあいの時に楽しそうであった	安心安全に楽しく通っていただけるよう日々改善を図っていきます。
	18	事業所の支援に満足しているか	92.9%	7.1%	0.0%	0.0%		保護者様のご協力の下やってこれました。今後も更に安心してお任せいただける事業所を目指します。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 28日

事業所名 URAURA八野

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	33.3%	66.7%	活動内容や、利用者ニーズを考慮し過ごす場所を分けている。 利用者同士の距離が近くなってしまう	感染対策を踏まえた空間づくり、人数に応じて活動を分ける等工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	66.7%	33.3%	1対1対応の必要な児童がいる場合や、送迎、受け入れの場面で不足していると感じる事がある。	他部署の協力を得ながら、不足は解消できるようにしていきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	83.3%	16.7%	出入口の工夫が必要	車椅子の利用者様には余裕のない箇所もあるが、注意が必要な箇所については職員が意識し声掛けをし、必要であればクッション材を使用していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	会議の場で話し合い職員間で共通理解している	PDCAとしては取り組んではいないが会議での話し合いを行っていく。決め毎の振り返りを日常的にできるように会議や終礼で確認していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	アンケート調査を実施し保護者のニーズを活動や支援に組み入れている	定期的を実施し、保護者ニーズや事業所改善につなげる
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページで公開している	わかりやすい文章で伝える事を心がけていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	83.3%	16.7%	第三者による外部評価を実施し、支援につなげていきたい。	法人全体で第三者評価について進めていく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	職員が積極的に研修に参加し、より質の高い支援ができるようにしていきたい。	研修の機会を職員に割り振って資質向上に偏りがないようにする。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	アセスメントを更新し支援につなげている	アセスメントを継続して実施し、児童への気付きを職員間で共有していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	アセスメント用意し担当が中心に検討している	標準化されたものを利用することで比較し対応方法などを探し出していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	職員全員が活動プログラム作成に案を出し担当が中心になってまとめている	会議で活動内容についてアイデアを出し合い決まったことがあれば共通理解できるようにしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	活動に偏りのないように曜日をずらして実施するなど工夫している。	今年度は、感染症対策をしながら外出の機会も増やしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	休校日は、午前と午後の活動を立案し、担当が動きを決めている。	休校日、長期休暇には、外出や制作などを組み込み楽しんでいただけるよう工夫していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	集団活動を中心にし、その前後の時間を個別活動としている	一人ひとりの発達状況に合わせた個別の取り組みをし、集団活動でも個別の配慮が必要な場合は応じていく
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83.3%	16.7%	その日の動きは担当が決めており、朝礼の場で必要な申し送りをしている。	支援の役割分担についてより細かく確認するようにしていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	83.3%	16.7%	終礼で気づいた点は共有している。申し送りノートにも書きこみ周知している。	終礼時に申し送りを継続支援の振り返りも行い改善につなげていく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	83.3%	16.7%	日々の記録については、排泄、食事、体温等の他にも気付きがあれば記録している。	書式を変更して記入した。簡略化できる部分は記号で記入するなどしている。今後もわかりやすく簡単に記入できるよう工夫していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	会議を行いモニタリングを行っている。	定期的なモニタリングの実施し、遅れないようにしていきます。 職員間で共通認識をし、計画が進められているか確認していく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%	外出活動を毎月組み込んだ	毎月の活動に組み入れて継続。 児童の特性もあり、無理のない取り組みを検討する。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83.3%	16.7%	時間が合わない場合もあり、毎回担当者ではないが、事前に打ち合わせをし、参加している。	代表が、他職員にも聞き取りを行い参加していく。参加して得た情報は、施設内で共有を図る。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	送迎時の情報交換と不明なことがあれば、学校に連絡して対応してもらっている。	学校との情報共有はされているが、今後も連絡調整を行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	80%	20%	医療的ケア児については、看護師対応で聞き取りをします。	今後医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、主治医との連絡体制を整えていく。看護師とも連携できるよう調整していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	40%	60%	計画相談を通じて情報をいただいている。	ご家族、計画相談事業所からの情報が多く個人情報の取り扱いが重視されることが多い。個人情報の取り扱いと並行して途切れのない支援の為の相互理解を深める必要がある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	実習等で学校より情報提供されているようであるが、支援の手立てを提供できる事があれば、移行先に提供していく。	事業所から問い合わせがあった場合、ご家族の了解を得られることを条件として情報共有ができるようにしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	必要に応じて行っている。研修などがあれば参加している。	必要に応じて連絡、助言をもらっている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	16.7%	83.3%	コロナ等の対策もあり、外部との交流が難しかった。	必要性を感じていない保護者もみえ、無理せず機会があれば交流を考えていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	20%	80%	協議会に参加している。	自立支援協議会やくらし部会、児童分野についても参加を継続する。職員への水平展開も進めていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	LINEでの情報伝達と、連絡帳への記入で日々の様子を伝えている。	送迎時、SNSでの情報発信や日々のやり取りの中で離しやすい関係作りをする。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50.0%	50.0%	LINEを気軽に利用してもらっているが、緊急の場合は、管理職が相談に乗っている。	外部への研修の機会が少ないが、独自でできる事をし、資質向上につなげていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0.0%	契約時や、聞かれた時には、説明を行っている。	定期的な情報発信を行う中で、簡潔に丁寧に説明を実施する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0.0%	適切にできているとは思わないが、情報があれば職員内でも話し合いが必要であれば計画相談につなげている。	困りごとの聞き取りを行い事業所での様子をお伝えするなどできる事を一緒に考えていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0.0%		施設内での感染症対策を行いながら、定期的に行っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0.0%	職員間で共有し、対応を考えている。その旨を保護者にも伝えている。	苦情があった場合は、保護者からよく聞き取りをし、職員間で原因究明、対応策について考えていく。朝終礼での申し送りや日誌への記入で全体に周知する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0.0%	毎月、これまでの様子を紹介したものを配布している。行事の案内も、LINEや紙面で行っている。	法人機関誌、事業所新聞を発行し活動の様子を伝え、SNSを活用しその日の様子を届けている。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0.0%	配慮している	写真の掲載についてはプライバシーを意識しながら実行しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0.0%	LINEや連絡帳、紙面などで情報伝達をしている。	SNSで写真を送る事で、伝わりやすくなっているが、わかりにくい場合などは丁寧に話をしてしていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0.0%	法人として「もりまつり」を行った	直接交流できる機会を徐々に増やせる内容を検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0.0%	マニュアルについての変更があれば、紙面で周知されている。	緊急対応時できるよう情報を共有していく。SNSも活用しわかりやすく伝達していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0.0%	非常時に備え、様々な避難訓練を実施している。	3か月に一度の避難訓練や施設全体での避難訓練を予定している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0.0%	虐待については、会議時に情報提供があり、意見交換をしている。	虐待防止委員会を行い、啓発をしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0.0%	車いすのベルト以外にはないが、ベルトの解除時間を日誌に記入している。	今後もご家族と身体拘束について意識合わせをしていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0.0%	アレルギーを記入したものを保護者より提出していただき、栄養士と連携している。おやつは、アレルギー表示をみて提供している。	契約時、保護者から具体的に聞き取りをし制限を実施。生命の危機の恐れのある場合は指示書の提出を以てする。アレルギーのような症状があれば、保護者にお伝えする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0.0%	より細やかなヒヤリハット事例をあげ支援や環境に配慮するようにしている。	挙げられたヒヤリハットは会議で分析し、共有する。事例集としてつづっていく。